

## 編輯室にて

- A 「どうだね、近頃は？」  
 B 「相變らず忙しい」  
 A 「星の評判はどうかネ？」  
 B 「なかなかすばらしいゾ！ 創刊號を發送するや否や、ハガキ、手紙が全國から飛び込むといふ仕末サ、  
 A 「えらく景氣が好いちやないか」  
 B 「マア世間とは正反對だよ」  
 A 「借しいことに、少し淡つべら過ぎるね、」  
 B 「暫く待てヨ。今は之れで一ぱいなのだ。何しろ貧乏な會でこんなものを出さうといふのにかなりの無理があるのだ。しかし、星も、天界も、より良くしやうと思へば、どうしても會員を増して、講讀者や後援者を多くしなければ算盤が持てないよ。」  
 A 「やつぱり金か！」  
 B 「何としても。止むを得ないね」  
 A 「雜誌を店頭に出して、一般に賣らせるやうにしたらどうだ。」  
 B 「それも考へてゐる——しかし、マア、とにかく今年一ぱいは、いろいろの試験時代だ。今に見ろ、會員を一萬ぐらゐにして見せるから」

|            |  |
|------------|--|
| <b>目次</b>  | カノープス星の憧れ(1) 佛國の日食觀測隊消息(2) キルソン山天文臺の詩(6) 創立三十週年の水澤緯度觀測所(12) 宮島氏の新天文臺(15) クリスチアン・ハイゲンス(16) 此の頃の太陽黒點活動(18) 本年二月の天象(20) 編輯室にて(24)   |
| Con tents: | The Rising Canopus(1); The Solar Eclipse Expedition from France(2); Poem of the Mount Wilson Observatory(6); The Mizusawa Latitude Observatory passing its 30th. year(12); Mr. Miyazima's New Observatory(15); Christiaan Huygens(16); Recent Activity of Sunspots(18), Heavens of February, 1930(20); Editorial Notes 24) |

|          |                |                              |           |       |
|----------|----------------|------------------------------|-----------|-------|
| <b>星</b> | 第2號            | 昭和五年一月二十四日印刷<br>昭和五年一月二十五日發行 | <b>天界</b> | 附録    |
| 編輯兼發行者   | 京都帝國大學内        | <b>天文同好會</b>                 | (代表者      | 山本一清) |
| 印刷所      | 京都市外山科町字東野一〇番地 |                              | 京都        | 刑務所   |
| 印刷者      | 京都市外山科町字東野一〇番地 |                              | 守田        | 千松    |